

# 第2回 ワークショップの内容

## テーマ エリアごとに屋外広告物のルールの方向性を考える

・松戸駅周辺の景観づくりの方向性や第1回ワークショップの結果を踏まえて、エリアごとの特性や規制誘導のイメージ等について意見交換

### ●オープニング

- ①第1回ワークショップの振り返り  
・松戸駅周辺の印象、各エリアの屋外広告物・景観に対する意見を全体共有

- ②当日のプログラム、進め方の説明

- ③「風景サイン」づくりについて  
・店舗等個々の魅力とまちの魅力を両立して伝える優れた広告物や表示物  
・屋外広告物の表示、掲出に関する指針を具体の配慮方法などを加えて解説したもの（「『風景サイン』づくりの推進に向けて」を配布）

### ●グループワーク

- ①対象エリアの屋外広告物・景観の特徴を踏まえ、景観づくりの方向性を考える  
・各エリアの現況写真や前回の意見、個々人のイメージから意見交換（意見交換のポイント）
  - ⇒賑やか、品格、魅力ある空間とする
  - ⇒居心地よく過ごせる場所とする
  - ⇒周辺の景観資源とのつながりを意識する…市の景観形成の方針
  - ⇒エリアごとのコンセプトの検討 など

- ②各エリアの広告物のルールの方向性を考える  
・各エリアの現況写真（もしくは住宅地図）をみながら、どのように改善するとよいかを話し合う  
・改善方法について、配慮例の書かれたイメージカードを使って意見交換（意見交換のポイント）
  - ⇒特に効果的と考えるもの、適用した方がよい場所などを検討
  - ⇒カードにないものは具体の工夫の仕方などを記載

### ●グループ発表

### ●アドバイザーからの講評

(※) アドバイザー

- ・松戸市景観審議会会長 池邊このみ氏（千葉大学大学院園芸学研究所 教授）
- ・松戸市景観アドバイザー 田邊 学氏（株式会社カラープランニングセンター代表取締役）
- ・松戸市景観アドバイザー 神谷 繁樹氏（千葉県建築士会松戸支部）

### ■『風景サイン』づくりの推進に向けて



### ■現況写真 第1回ワークショップで気になるものとして挙げられた意見などを踏まえ、各エリアの特徴をとらえた写真を掲載



B班：キテミテマツド通り

### ■イメージカード（配慮した表示・掲出方法など）

・写真内の対象がどのようにになるとよいか、配慮方法を選択できるよう、イメージカードを準備、ルールの方向性を検討



イメージカード  
(遠景用と近景用の2種類を準備)

## A班 西口駅前大通り+西口デッキ

## ①駅前大通り

- ・メインストリートとなるべき通りだが魅力を感じない、歩きたいとは思わない
- ・まちの特性、歴史をどう活かすかが大事
- ・坂川、旧水戸街道の景観を感じさせる整備ができないか
- ・裏手にある小物屋さんなど小さくて良い感じの店、細道の雰囲気を活かしたい

## ②西口デッキ

- ・駅をでてすぐに案内がほしい
- ・メイン通りへの案内や市民に親しみやすい看板が必要
- ・ユニバーサルデザインに配慮
- ・観光案内所がわかりやすいようになるとよい



## B班 キテミテマツド通り+西口デッキ

- ・幅広い世代が来る場所で、誰でも共感できるデザインが大切
- ・緑が多い通りで、緑と調和したまちになるとよい
- ・緑が多い公園・神社とキテミテマツドをつなげて演出できるとよい
- ・看板が多いと緑が映えない
- ・落ち着いた雰囲気のお店も目立ち、今後増えてほしい
- ・地域の資源としてアートを活かすことが考えられ、定期的にアートイベントができるとよい
- ・治安のよい印象にしたい

## C班 東口デッキ上下

## ①東口デッキ上

- ・看板が多くて分かりにくい
- ・圧迫感があり窮屈な感じがする
- ・目的地への案内やいろいろな情報が整理されていることが大事
- ・立ち止まって写真を撮りたくなる場になるとよい
- ・落ち着く場、歩きやすい場であることが大事

## ②東口デッキ下

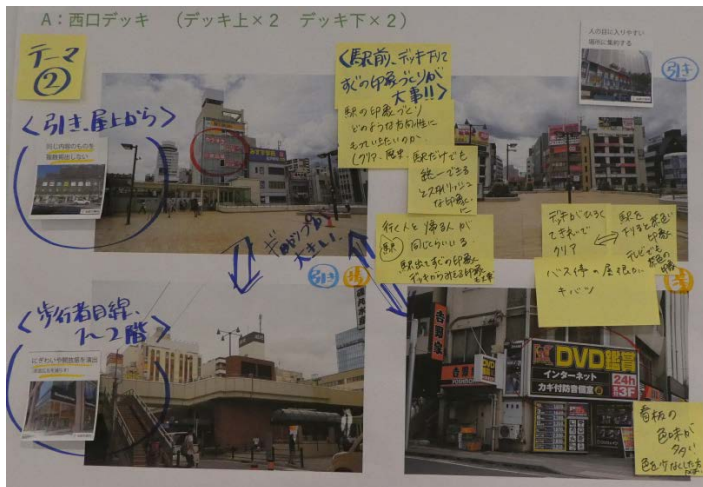
- ・歩行者にとって危険な面もあり、歩きやすい場であることが重要
- ・通りごとの雰囲気、特徴がだせるとよい
- ・圧迫感がないような工夫が必要

## A班 西口デッキ+西口駅前大通り

- 同じ内容のものを**複数掲出**しない
- 歩行者の目線に入る**低層部**には**にぎわいや開放感**を演出
- 色使いや大きさ**の配慮
- 最近**シンプルなもの**が好まれる傾向に変わってきた印象

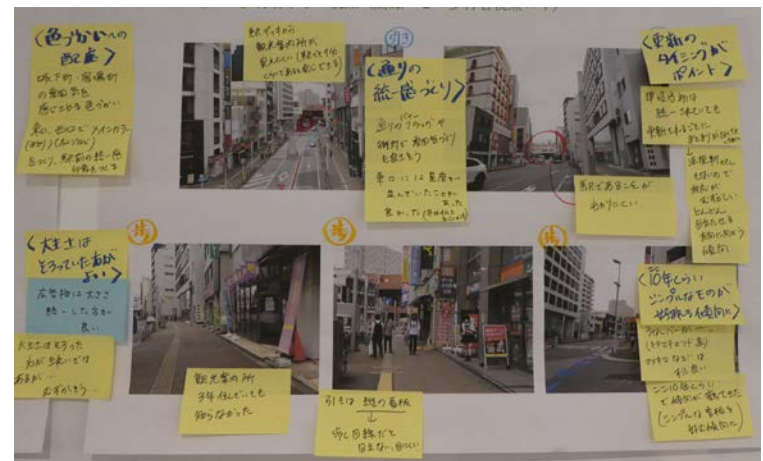
### <西口デッキ>

- ・駅前、デッキを降りてすぐの**印象づくり**が大事
- ・窓面広告を減らして、**にぎわいや開放感**を演出する
- ・人の目に入りやすい場所に**集約**する
- ・看板の**色を少なく**した方が良い



### <駅前大通り>

- ・**通りの統一感**づくり
- ・**バナー・フラッグ**などによる**雰囲気**づくりも良さそう
- ・**観光案内所**が近い場所にあると安心できる





## B班 キテミテマツド通り+西口デッキ

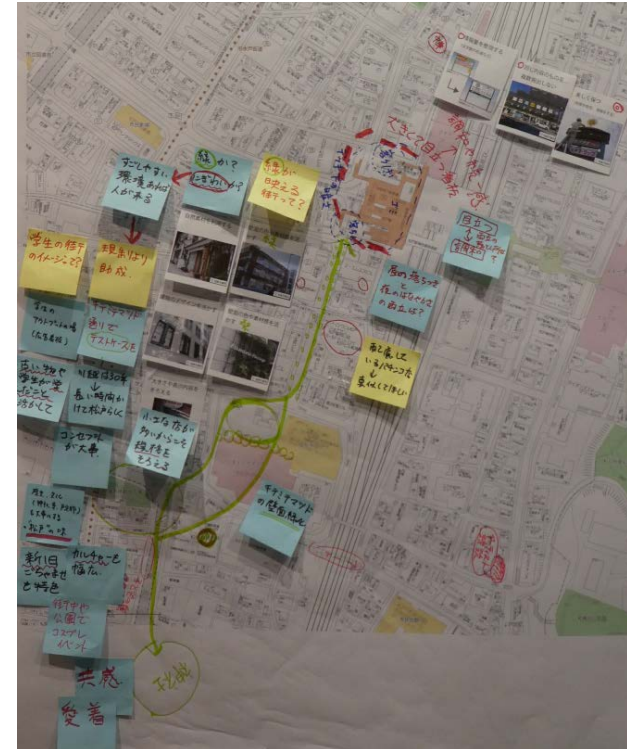
- 長い時間をかけて松戸らしさを出していく
- 幅広い年齢・誰でも共感できるデザインで、愛着を持ってもらうことが大事

### <キテミテマツド通り>

- 緑が映える街
  - ・自然素材を利用する
  - ・建物のデザインを活かす
  - ・小さな店が多いからこそ大きさや表示内容など規格をそろえる
  - ・緑でも演出する
  - ・壁面緑化とあわせて広告の掲出を考える
- 過ごしやすい環境があれば人が来て賑わいにつながる

### <西口デッキ>

- 看板が目立つことと調和の両立
  - ・情報量を整理する
  - ・同じ内容のものを複数掲出しない
  - ・美しく保つ
- 昼の落ち着きと夜の華やかさの両立



## C班 東口デッキ上下

- 情報量を整理し、シンプルでわかりやすくする
- デッキを活かす

### <東口デッキ上>

- ・にぎわいや開放感を演出
- ・眺望に係る場所では屋外広告物を控える
- ・人目に入りやすい場所に集約する
- ・フォトスポットになるものをつくる
- ・同じものを複数掲出しない
- ・色や表示面積を抑える

### <東口デッキ下>

- ・表示面積を抑える
- ・大きさや表示内容をそろえ、形態や色彩を統一する
- ・建物の入り口部分に分かりやすい案内を設ける



### <東口周辺>

- ・イトーヨーカドー付近など地形的特徴が感じられるよう工夫する
- ・歩行者が見やすい場所に集約・設置する
- ・歩きやすさや見通しを確保する
- ・路地の雰囲気をつくる

### 池邊このみ氏より

- ・キテミテマツド通りにはアイストップになるものがない。
- ・観光案内所は最初に行きたい場所になる。
- ・西口のタクシー乗り場へと降りる場所やバスへの乗降時などバリアフリーを進めるべき。
- ・コメダの白抜き文字の看板などの工夫が他の看板にもほしい。
- ・東口デッキをまずは市がきれいにしておいて下を明るくすることによって、商店街の人々に意識してもらい、良循環を生み出すべきである。

### 田邊学氏より

- ・キテミテマツドの“キテミテ”は商業や観光のメッセージを発している名前。市の「風景サインづくりの推進に向けて」のパンフレットの表紙の写真のうち、外側には、松戸に「来て、見て」欲しいという、魅力的な写真を集めている。内側6枚には、松戸駅周辺の写真を用いている。これを見て、友達に「松戸に『来て、見て』」と言えるかどうかポイント。
- ・松戸は「来て、見て」といえる要素がたくさんあるのに、駅周辺は寂しく個性がないことが課題。
- ・松戸駅からキテミテマツド通りには多くの看板がひしめき合っている。その結果、普段は落ち着いた看板を作成するチェーン店が周りに感化され、たくさんの看板がついているのが現状である。この悪循環を断ち切らなければならない。
- ・市が取り組みとしてテナントビルをバックアップすることが大切。
- ・広告物はメッセージ要素を含むものなので、多くの人に向けたメッセージを表示すべき。
- ・松戸に「来て、見て」、良かったと思える街になればよい。

### 神谷繁樹氏より

(A班に関して)

- ・市に分かりやすい看板を手掛けてほしい
- ・メイン通りは昔古いアーケードがあったため、古いビルには比較的看板が少なくなっている。整備の仕方によっては良い通りになるのではないか。
- ・同じ表示の看板がたくさんあったことについて改善して欲しい。

(B班に関して)

- ・学生の街にしてほしい。アートについて取り上げていたことについても良いことだと思った。
- ・キテミテマツド通りは街路樹が整備され、一方通行で車道が狭いため意外と整備されている。皆さんの力でこれからも松戸の街をつくっていければという意見に共感した。

(C班に関して)

- ・デッキ上から見えるビルの看板が整理されれば他都市の見本となる街となる。
- ・看板の本来の目的に立ち返ってより良い看板を設置していくべきである。
- ・デッキの床や壁を利用する、垂れ幕等の提案も良かった。